

冬季刺網によるオオクチバス捕獲状況

田口貴史・大前信輔（水産課）

1. 目的

平成 26 年度に発生したオオクチバス（以下、バス）卓越年級群の駆除を目的とした冬季刺網での捕獲状況と、捕獲魚の食性を把握する。

2. 方法

平成 28 年 1 月 5 日から 3 月 30 日にかけて、琵琶湖沿湖 9 漁協に刺網での外来魚駆除を依頼した。刺網は目合い 70 mm と 85 mm の 1 枚網で、把数は各 16 把とした。各月に北湖、南湖のそれぞれで目合いごとにサンプリングし、標準体長と体重を測定した。また、測定個体の一部について胃内容物を調査し、餌料重要度百分率 (%IRI) ¹⁾ を算出した。

3. 結果

期間中に刺網での駆除は計 173 回実施された。月別、地域別の捕獲状況を表 1 に示す。バスの総捕獲量は 3,814 kg で平均捕獲量は 22 kg/回であった。捕獲魚の体長組成を図 1 に示す。北湖、南湖とも捕獲魚の大半は体長 20 ~ 30 cm で過去の知見²⁾から、目的とした平成 26 年度発生群と、その前年の平成 25 年度発生群を主体に駆除できたと考えられた。

捕獲魚の食性 (%IRI : 図 2) は種不明の割合が高かったが、北湖ではイサザやアユ、エビ類を南湖ではブルーギルを中心にその他魚類やエビ類を捕食していることが確認された。

表 1 地域別月別のオオクチバス捕獲重量 (kg)

	琵琶湖	南湖	北湖
1月	1,338	116	1,222
2月	1,608	685	923
3月	869	527	342
総計	3,814	1,328	2,486

* 端数処理により、総計と内訳が一致しない箇所がある。

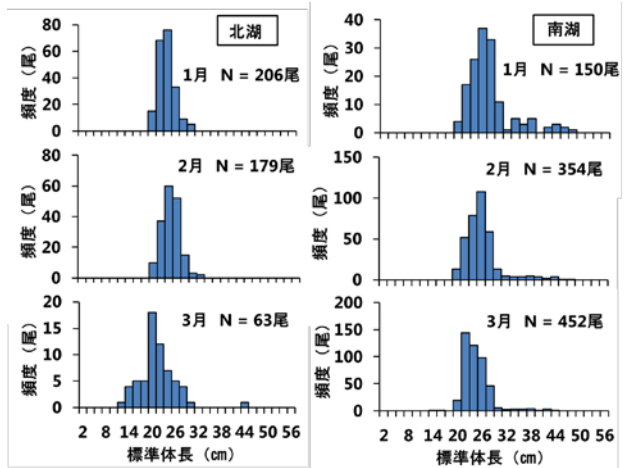


図 1 採捕されたオオクチバスの体長組成

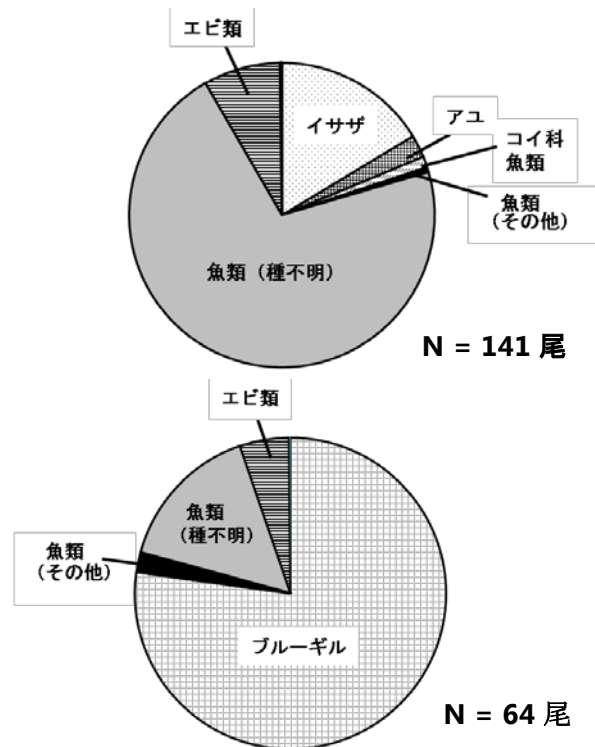


図 2 オオクチバス胃内容物の%IRI
(上：北湖、下：南湖)